

自ら医療に参加することで、より安全な医療が実現します

## ～安全に医療を利用するための、5つのポイント～

患者さん自身も医療チームの一員として積極的に関わることが、治療の成績を向上させ、医療事故を防ぐためにも大切です。以下に、5つのポイントをご紹介します。

### 1．疑問をもったときは、遠慮せず尋ねましょう。

十分理解できるまで説明してもらいましょう。あなたの疑問に答えてくれる病院を選びましょう。話しやすい医師を選びましょう。尋ねにくければ、家族や友人に同席してもらいましょう。

### 2．病院にかかるときは、あなたが使っているすべてのお薬のリストをもってゆきましょう。

薬局で購入した薬も含めて、医師または薬剤師に必ず見せてください。お薬のアレルギーは必ず伝えてください。薬の処方を受けたら、副作用や服用上の注意について尋ねましょう。受け取るときに自分のお薬かどうか、日数は合っているかどうか確認しましょう。期待していた薬と異なるときは薬剤師に尋ねましょう。市販薬の注意書きは必ず読みましょう。

### 3．検査や治療の結果をもらいましょう。

いつ、どうすればもらえるのか気軽に尋ねてください。説明や連絡がなくても、結果を確認しましょう。また検査結果が正常でも、除外できる病気は限られます。結果の説明を受けて、今後の治療や健康管理に活かしてください。

### 4．あなたの健康ニーズに最も適しているのは、どの医師・診療科・病院なのかを、かかりつけ医と相談しましょう。

自分にあった病院はどこなのか、診療所のかかりつけ医にまず相談し、紹介状をもらいましょう。そして、病院での検査・治療が終了するときは、今後どうすればよいかをしっかりと相談し理解に努めましょう。

### 5．手術や侵襲的な検査が必要な場合、それらを受けた結果でどんなことが起こりうるのか理解できていますか？

あなた自身はもちろん、かかりつけ医（主治医）、外科医（執刀医）の全員が、手術や検査中に何が行われるかを了解していますか？ 入院したら、あなたのケアを管理統轄するのが誰なのか確認しましょう。主治医には術後や検査後に起こりうること、順調な回復状態について尋ねましょう。主治医・外科医・麻酔科医・看護師には、アレルギーの有無や麻酔、薬剤の副作用の経験について話しましょう。